

### 第34回： 環境化学物質とバイオアッセイ

開催日： 1998年12月1日～2日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 昨今、ダイオキシンを含む環境ホルモンによる生態系への影響が社会的な関心を集めております。とくに、環境ホルモンは微量かつ複合的に作用するために、単一化学物質の検出のみの把握では、その実態を十分に明らかにすることができないのが現状です。そこで、化学物質を総合的に把握する指標としてのバイオアッセイ法の導入が必要となっております。本セミナーではバイオアッセイについての最近の動向と化学物質評価への適用例を中心にわかりやすく解説することにしました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 水環境におけるバイオアッセイの役割 —現在の流れと今後—（内海英雄／九州大学薬学部）
- 諸外国におけるバイオアッセイ手法の動向（楠井隆史／富山県立大学短期大学部）
- バイオアッセイによる環境リスク評価方法（松井三郎、滝上 英孝／京都大学環境質制御研究センター）
- 環境変異原物質の検出系とその検索（若林敬二／国立がんセンター研究所）
- 細胞培養を用いた化学物質の毒性評価（武田健<sup>o</sup>，田畑真佐子，吉田成一／東京理科大学薬学部）
- 化学物質の生態系に対するリスクアセスメント手法（高月峰夫／（財）化学品検査協会安全性評価技術研究所）
- 化学物質による生態系への影響評価 —ホ乳動物を中心として—（藤田正一／北海道大学大学院獣医学研究科）
- 環境ホルモンと生態リスク評価（松田裕之／東京大学海洋研究所）